

第 1 4 号議案平成 2 8 年度仙台市一般会計予算第 1 条歳入歳出予算中歳出第 3 款市民費ほか

佐々木心 委員

スポーツ推進事業の中の国際スポーツイベント等の開催、1 億 1 4 0 0 万円余の仙台国際ハーフマラソン大会開催の 7 0 0 0 万円余と、地域施設設備の市民センター設備費 9 億 3 3 0 0 万円余について順次お伺いします。また、質問によっては他局にまたぎますので、委員長、よろしくお願いたします。

まずは、今回で 2 6 回目の開催になる仙台国際ハーフマラソン大会について、今日までさまざまな経緯を踏まえ、開催に当たり関係各位皆様の御尽力で大会が魅力あるものになっていることを認識しております。そして、開催月の 5 月はさまざまなイベントが毎週行われます。ゴールデンウィークが終わり、その週末には仙台国際ハーフマラソン大会があり、翌週末には仙台青葉まつりの開催、そして、その翌週には G 7 仙台財務大臣・中央銀行総裁会議の開催など、仙台市をアピールする絶好のチャンスであります。

そのオープニングを飾る仙台国際ハーフマラソン大会は、開催の準備に最大限の配慮をし、大会を成功裏に行い、次なる事業へよいバトンを引き継いでもらいたいと考えます。まず初めに、大会の詳細と申込方法について伺います。昨年の大会から申込方法はハーフマラソンの部と 5 キロ、2 キロの部、ともにインターネットと郵便振替になっており、ことしもエントリー開始時間は 2 0 時で、申込方法と状況や効果についてどのようにお考えか、お伺いします。

スポーツ振興課長

今回の仙台国際ハーフマラソン大会のインターネット先着の御参加申し込みにつきましては、使用サーバー増強や補助オペレーターの配置を行ったことから操作環境が向上し、申し込みから約 3 0 分で募集枠に達したところでございます。また、抽選申し込みにつきましては、申込倍率が約 1. 4 倍と昨年とほぼ同様の状況となっております。インターネットの利用環境にない方への配慮として、郵便振替による抽選申し込みを併用しており、一定の評価をいただいているものと考えております。

佐々木心 委員

今大会からチャリティーランナー部門を設置しております。この部門の設置は東日本大震災を風化させないためにも非常にいい部門だと思えます。定員は 1 0 0 名であり、通常の参加料 6, 0 0 0 円にプラス寄付金 5 万円になります。その寄付金は三つのテーマのうち支援したいテーマを選択できるというすばらしい内容であります。その三つは、一つに仙台の子供たちを元気にという項目で仙台市児童養護施設協議会への寄付、二つに仙台の音楽を元気にという項目で公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団への寄付、三つに仙台のスポーツを元気にという項目で公益財団法人仙台市スポーツ振興事業団への寄付となっております。また、確定申告により所得税の寄付金控除の対象にもなっております。そこで、この部門のエントリーについては現在進行中ではありますが、現状の進捗についてどのようになっているのか、お伺いします。また、寄付金を 5 万円とした根拠もお伺いいたします。

スポーツ振興課長

チャリティーランナーの部につきましては 3 月 1 0 日までの受付期間としておりますが、昨日までで 5 1 名に応募いただいております。チャリティー分野の内訳としましては、仙台の子供たちを元気が 2 4 件、仙台のスポーツを元気が 1 8 件、仙台の音楽を元気が 9 件となっております。また、チャリティー金額を 5 万円とした理由でございますが、1 万人という参加規模や国内のほかの主要な大会を参考とし、実行委員会により決定しているところでございます。

佐々木心 委員

51名ということで残枠があるので、再度この残りの枠についても広報活動に御尽力をお願いします。
また、5万円という高い金額を寄付するので、当日はゼッケン等でチャリティーランナーだと一目でわかるように何か工夫をされているのか、お伺いをいたします。

スポーツ振興課長

チャリティーランナーの皆様につきましては、震災復興及びまちの活性化への御協力への感謝を大会としてもあらわす必要があると考えておりますことから、一般参加者との違いを判別できるゼッケンを準備する予定でございます。

佐々木心 委員

次に、参加人数と定員人数について伺います。昨年の開催報告書によるとハーフマラソンは登録の部、一般の部、車椅子の部を合わせ1万1129人で、5キロの部、男女合わせて2,044人、2キロの部、各カテゴリー合わせ512名であり、トータル1万3685人です。報告書を見る限り救急搬送等があったりしましたが、開催に当たり関係者の御尽力で大きなトラブルもなく行われたことを認識しております。

そこで、私が御提案したいのは定員人数の大幅拡大であります。今日のランニングブームと健康増進の観点から、また、定員人数の大幅拡大により新設予定の文化観光局のアピールや、国内はもちろん国外からの参加者を募り、仙台の文化、観光の魅力、歴史をアピールする絶好の機会です。参加者は当日に来られる方もいますし、前日や数日前から来られる方もいます。飲食街や宿泊先も盛り上がります。

そこで、私は定員を当日の陸上競技場のスタンドや隣接しているコボスタを有効に、かつ計画的に活用し、2万人にしてはとありますが、そのようになったとき参加者のスタートの時間の差が生じたり具体的な課題や問題点があればお聞かせください。

スポーツ振興課長

御提案の2万人規模への拡大を考えた場合、確かに大会の魅力さをさらに向上させる方策の一つとも考えられることがございますが、最大の課題といたしましてスタートスペースの確保と考えております。また、交通規制時間などのほかの課題もございます。

佐々木心 委員

余りちょっと乗り気ではないということなのかなというふうに思いますが、次に進めさせていただきます。
コースについて伺います。この大会は仙台市陸上競技場をスタートし、新寺や東二番丁通を駆け抜け、仙台市の中心部である青葉通や定禅寺通を通過します。その後、東側の卸町地区へ向かい、仙台市陸上競技場に戻ります。ランネットというサイトには参加者の声で、特に「青葉通や定禅寺通の緑のトンネルの景観がよい」や、「すばらしい町並みを通る都市型コース」などの高い御評価を得ております。そこでまず伺いたいのは、仙台国際ハーフマラソン大会のコースはどのような機関で承認をされているのか伺います。

スポーツ振興課長

仙台国際ハーフマラソンのコースにつきましては、日本陸上競技連盟の長距離競走路として認証を受けております。

佐々木心 委員

陸連ということで、承認の有効期限はありますか。

スポーツ振興課長

コースの認証期間は5年となっております、平成23年9月30日から平成28年9月29日までとなっております。

佐々木心 委員

そうすると、今回の大会で有効期限が切れるということになりますが、その際にコースの見直しをどのように行われ、いつまで確定するのかをお聞きします。また、平成27年に開催された横浜マラソンが実際の距離より足らなくて記録は正式記録にならないなどのようなことが決してないように、最大限の注意を図っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

スポーツ振興課長

日本陸上競技連盟のコース認証期間は今回の大会の後に期限が切れますことから、期限満了後速やかに日本陸上競技連盟に次の認証の申請を行う予定としております。この認証申請のタイミングにおきまして、現行コースに係る周辺状況の変化などの要因を検証し、コースの一部見直しを行う必要があるか否かを検討する予定でございます。

なお、コースの見直しの検討に当たりましては、陸上協議協会や障害者陸上協議協会といった競技団体などのハーフマラソン実行委員会の構成員や交通関連の各機関と十分に協議を重ねながら慎重に努めてまいりたいと考えております。

佐々木心 委員

コースを一部見直すということでございましたが、私はコースを見直す際に、御評価の高い青葉通や定禅寺通の市街地の経路は残し、東側の魅力をアピールしてはと考えます。具体的には地下鉄東西線が開業し、地下鉄の魅力をアピールするために東の終着点でもある荒井駅を通る経路や、東日本大震災から丸5年を経過して風化させないためにも集団移転先や災害公営住宅を通る道、東側を通ることで安全面や国道4号線をまたぐことにより警備や道路規制の課題が多くなるのは承知していますが、東側の対象の魅力というのはどのようにお考えか、お聞かせください。

スポーツ振興課長

本大会につきましては、本市を代表するスポーツイベントといたしまして震災復興の発信に係る取り組みを大会運営に活用していくことが重要であると認識しております。東部地域の活用もその手法の一つですが、規制エリアや主要幹線道路の交通規制が拡大することにより多方面へ影響が及ぶことから、慎重な検討が求められるものと考えております。震災復興発信の取り組みとして本大会においてチャリティーランナーの導入などを実施しておりますが、引き続き各種取り組みを行ってまいりたいと考えております。

佐々木心 委員

慎重にということですが、本当に繰り返しになりますが丸5年を迎えるので、ぜひ思い切った見直しも検討していただければと思います。

また、コースを見直す際に同日には車椅子ハーフマラソンの部が行われますので、同じコースを走れるように尽力した赤いネクタイの意味でもありますので、同様に特段の配慮をお願いしますが、いかがでしょうか。

スポーツ振興課長

車椅子の部につきましては平成12年度第11回大会より本大会の1部門として実施しております。車椅子競技につきましては本市スポーツ推進計画で目指す、いつでも、どこでも、誰でもスポーツを親しみ、楽しみ、参加することができる環境創出につながるものであり、重要な部門であると認識しておりますことから、引き続きハーフマラソンと同じコースを使用して開催してまいります。

佐々木心委員

ぜひ車椅子については、繰り返しになりますが、赤いネクタイの意思でもございますので、よろしくお願いいたします。また、昨日には東京マラソン2016が行われましたが、フルマラソンの格上げはどのようにお考えか、お聞かせください。

スポーツ振興課長

本大会につきましては1万人規模としてリニューアルしてからこれまで4回の開催を数え、国内で有数のハーフマラソン大会として各方面からも一定の評価をいただいております。引き続き、国内最高峰のハーフマラソン大会を目指した運営を第一として、フルマラソンへの格上げについては長期的視点に立って検討してまいりたいと考えております。

佐々木心委員

長期的にということで、極力規模がそのときそのときのニーズで変わってきますので、前向きに検討していただければというふうに思います。

日本一の国際ハーフマラソン大会にするために、要はポジティブチェンジです。フルマラソンができないのであれば日本一の国際ハーフマラソン大会にするように、参加人数の絶対数もコースの魅力も文字どおり日本一になるように切望しますが、担当局長の御所見をお伺いいたします。

市民局長

この大会はリニューアル当初から国内最高峰のハーフマラソン大会目指して取り組んでまいりました。おかげさまで参加ランナーからは相当程度高い評価をいただいているものと認識してございますが、それ以外にもボランティアとして約2,000人が携わったり、あるいは沿道からの観衆も7万人を超えるなど、杜の都が一体となってにぎわう本市を代表するスポーツイベントとして定着してきていると認識しているところでございます。引き続き、ランナーのみならず、より多くの市民の皆様が参加し喜んでいただける大会を目標として、コースの魅力向上を含めまして努力してまいる所存でございます。

佐々木心委員

ありがとうございます。確かにその準備する側のところも目配りをしなければいけないというのは重々承知しております。ことし、大会当時は私も微力ながらお手伝いに参ります。大会を成功裏に終わることを祈念して、そして、ことしもランナーとして参加される伊藤副市長に大会への思いをお聞かせください。

伊藤副市長

リニューアル後、全ての大会を走らせていただいております。このハーフマラソンが国内最高峰だと言われるようなその理由は幾つかございます。一つは、先ほど来お話がありますようにコースの問題。それから、出場されるプロの、セミプロですけれども、選手がロードの季節の最後なんですけれども、非常に高名な選手が走っていただけること。それから、東北のお祭りの皆さんが定禅寺通のところに来て、それぞれのお祭りの格好をして応援してくれること。

佐々木心 委員

伊藤副市長、ありがとうございました。済みません、ちょっと聞き漏れがあったんですけれども、ことしは走られるというので。

伊藤副市長

これから調整を始めてしっかり走りたいと思っております。

佐々木心 委員

次に、市民センターについて伺います。実施計画に基づき順次改築工事や大規模修繕設計を進められていることは地域住民の方々に非常に喜ばれていますが、工事が終わったところからは新たな要望、課題が出ております。また、市民利用施設の利用証の見直しについては30年も見直しをしてきていなかったことを思えば、今回の見直しは一定の理解をしております。

だからこそ市民センターの利用について利用者のニーズに応えるべきと考えます。備品については会議室の椅子や机、音響設備、体育館の卓球台や備品など、そして、和室の座布団や座椅子であります。

そこで今回伺うのは、和室のあり方であります。まず、和室の利用の中身は懇親会や講演会等、茶道や生け花教室や日舞教室など和の心に特化した利用であると考えます。そこで、和室の利用率と会議室の利用率の割合はどのようになっているかをお伺いいたします。

地域政策課長

市民センターは現在60館の配置となっておりますが、現在把握できる平成26年度の稼働率につきましては、休館中だった3館を除きまして和室が約68%、会議室が約83%となっております。

佐々木心 委員

仙台市内全館で60館、和室は全て設置してありますが、現在収容人数に対して座布団と座椅子の設置はどのような割合になっておりますか。

地域政策課長

市民センターの和室につきましては、全60館で117室ございます。約2,930畳になっております。1畳当たりを1.5人で換算しますと収容人数は約4,400人となります。座布団につきましては、おおむね収容人数に見合う数が配置されておりますが、御指摘の座敷椅子につきましては20脚となっております。

佐々木心 委員

座敷椅子、座椅子については20脚だけということで、明らかに不足していると言わざるを得ない状況ではありますが、これについてはどのようにお考えでしょうか。

地域政策課長

市民センターは最初につくる際に和室につきましては座布団を備品として備えつけておりますが、これまで座敷椅子を備品としては備えつけておりませんでした。先ほど申し上げました20脚につきましては、近年一部のところで配置しているものでございます。

佐々木心 委員

とにかく20脚ということで少ないということなんです、仮に全ての座椅子を用意すると費用はどのくらいの経費になるのか、お聞かせください。

地域政策課長

先ほど申し上げました約4,400人に対して収容人数に見合う座敷椅子を用意する場合、単価を5,000円と想定しますと約2190万円と見込まれます。

佐々木心 委員

やはりそこまでの費用負担がかかるのであれば、公共施設や学校のトイレの洋式化のように段階的に用意してはというふうに提案いたしますが、いかがでしょうか。

地域政策課長

市民センターの備品につきましては、年度ごとの限られた予算の中で各区役所において老朽化の度合いなどから更新や新規購入を行っております。特に会議室の机や椅子の老朽化が進んでいるため、和室の座敷椅子を短期間で大幅に増加することは困難と考えております。また、館によりましては収納スペースの課題がございます。ただ、和室の数、それから利用の形態というのは地域によって異なっておりますので、利用者の皆様の声も伺いながら可能な対応を検討してまいりたいと存じます。

佐々木心 委員

置く場所の課題があるということでございますし、地域によっての実情が違うので検討するということですが、我々の地域では非常にそのニーズが高いので、ぜひ前向きに検討していただければと思います。

また、ここである事例を紹介したいと思います。ことし1月27日に行われた行政と地域の懇談会において、議題の中の項目で八本松市民センターの設備、備品の充実をお願いしたいという項目で、中身は以下の内容であります。八本松市民センターは平成26年10月から半年かけて改修工事が行われ、地域住民の期待のもとに平成27年4月からリニューアルオープンしたが、体育館の暖房設備以外、以前と変わりなく、やや期待外れの感がある。体育館の椅子、机は以前の古いもので破損したものが多く、社協主催の高齢者ふれあいの集いでは2階会議室から椅子、机を運び、それでも不足分は卓球台を机がわりにした。

また、11月のうぶすな祭りでは近隣町内会から椅子、机を借りて何とか間に合わせる状況で、その苦労も大変なものでした。2階会議室の椅子、机も新しくなったが、数の面で足りず、机なしで会議に参加する人は傍聴人みたいで集中した会議ができない状態である。2階和室も畳が傷つく理由からパイプ椅子を使えないということだが、足の悪い高齢者もおり、お寺などで使用している椅子を使えば畳が傷つく心配もないので、そのような椅子を入れることも考えられる。以上、椅子、机の備品の不足により市民センターを快適に利用できない状況にあるので、その充実をお願いしたいという内容であります。

地域では切実な悩みであります。このことについて当日会議参加予定でありました太白区長にお伺いしたいのですが、当日インフルエンザで欠席されておりましたので、かわりに担当局長、御答弁いただいてよろしいでしょうか。

市民局長

市民センターの備品につきまして、それぞれの館で老朽化が進んでございます。館によりましては今お話しのように特に机や椅子の傷みが激しくなってございます。利用できないようなものも出てきてございます。居室ごとの定員に満たないために、利用の際にほかの居室から補充しなければならないという状況もあるものと認識してございます。

市民センターは地域活動の拠点となる施設でございます。予算の制約はございますが、使用料改定になる増収に伴う予算も活用しながら備品の更新に努めてまいりたいと存じます。

佐々木心 委員

ぜひ予算はつけていただいて、各地域のニーズに合ったものを取り入れていただければと思います。

最後に、市民センターは市民のために利用しやすい管理、整備をするものだと考えますが、市長の御所見をお伺いいたします。

市長

仙台市内各地に整備をいたしております市民センターは、ただいまお話にもございましたように各地域の活動の拠点、交流の拠点として整備をしているものでございます。甚だ財政的な措置の面もあり、この間備品等についても御不自由をおかけしている面があるということは、ただいま局長のほうからも御答弁申し上げたとおりでございます。やはり若干お時間をいただき、また優先順位なども精査をさせていただく中ではございますが、市民の皆様の御要望にお応えできるような方向で今後とも調整をしてみたいと考えます。

佐々木心 委員

市長、ありがとうございます。若干期間をいただくということで、その若干がいち早く実るようによろしく願い申し上げ、以上とさせていただきます。